

平成22年10月12日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長  
岡田 憲夫

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とした全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」と認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多忙中の所、まことに恐縮でございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 公募人員： 准教授 1名
2. 所 属： 大気・水研究グループ 気象・水象災害研究部門 災害気候研究分野
3. 研究内容等： 地球規模の大気循環変動に伴って生じる異常気象や極端大気現象の発現メカニズムや予測可能性の解明を目指し、大気大循環モデルを用いたアンサンブル予測実験などの数値的手法に基づいた研究を実施する。さらに、異常気象に起因する気象災害の研究を、防災研究所の他分野等と共同して推進する。  
また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期： 可能な限り早い時期
5. 応募資格： 博士の学位を有すること。  
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. 提出書類： 次の(1)～(6) 各一式
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績一覧（審査付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに分けしたもの）
  - (3) 主要論文別刷（コピー可） 5編
  - (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
  - (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内：説明図の添付可）

(これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと)

(6) 推薦書、または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先

7. 公募締切： 平成23年1月11日(火)【必着】

8. 書類提出先：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室

気象・水象災害研究部門 災害気候研究分野 准教授候補者選考委員会 宛

(封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書き、郵送の場合には書留にすること)

9. 問い合わせ先：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付

気象・水象災害研究部門 災害気候研究分野 准教授候補者選考委員会

e-mail: [apply\\_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp](mailto:apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp)

(封書あるいはEメールに限る)

10. その他：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

## 気象・水象災害研究部門の概要

### 1. 研究目的及び研究内容の概要

大気や水に関する現象には、人間の周りのごく小さなスケールから地球全体に至る大きなスケールまで、実に様々な空間スケールのものが存在します。また、時間スケールも、竜巻のように激烈で短時間に生じるものから、ブロッキング現象のように一ヶ月以上の長期にわたって持続して広い地域に異常天候をもたらすものなど様々です。これらの現象は、人間活動と複雑に絡み合いながら、時にはすさまじい破壊力で人々の安全を脅かしてきました。近年では、人間活動の飛躍的増大とともに大気・水環境が大きく変貌し、地域規模から地球規模まで数多くの災害・環境問題が生じています。

5つの研究分野から成る本研究部門では、大気と水に関する様々な現象の発現機構の解明と予測に関する研究を通じて、さまざまな規模の大気災害や水災害の軽減と防止と環境問題の解決を目指して研究を進めています。最近では地球温暖化に関連して、地球規模の気候変動や環境変化に伴う大気・水循環の変化予測の研究、水災害環境対策技術の開発に関する研究、極端化・異常気象に起因する降雨・流出・河川氾濫や暴風・高潮・高波災害に関する研究を行っています。また、近い将来発生が予想される南海・東南海地震による津波災害の防御に係わる研究も進めています。現象の解明や予測手法に加えて、災害を防ぐための構造物の設計法などの具体的な防御方策の研究も5分野で連携して進めています。

### 災害気候研究分野

大気組成の変化や、大気や海洋の循環変動による異常気象・異常天候の発現過程や予測可能性、気候変動とその機構を解明することを目指し、大気大循環モデルや領域気象モデルなどの大気モデルを用いた数値実験や、長期間の気象海洋観測データ、さらには現業アンサンブル数値天気予報データの解析などにより研究を進めています。

### 暴風雨・気象環境研究分野

大気象災害の原因となる台風・豪雨・暴風など異常気象現象の構造とその発生・発達機構を解明するため、衛星データや気象データの解析・数値モデリングなどの手法を用いた研究を進めています。また、異常気象の背景となる領域スケールの大気環境変動やアジアモンスーンの変動の研究、将来気候での異常気象発現特性の研究も進めています。

### 耐風構造研究分野

台風や竜巻・ダンウバーストなどの強風による災害の低減および快適な風環境の実現、風力エネルギーの利用をめざして、強風被害の発生メカニズムの解明と被害予測方法の確立、強風に強い構造物の合理的耐風設計法の提案、火災気流を含めた都市内の風環境の研究、風力発電装置の開発等を観測、実験、数値シミュレーション、災害調査などによって行っています。

## 沿岸災害研究分野

我が国の沿岸部を保全し、安全で快適な市民の生活を保障するため、沿岸域における高波、高潮、津波といった海からの脅威を防ぎ、軽減する対策法の確立が重要な課題となっています。また、地球温暖化に伴う極端気象・海象による沿岸災害評価とその防止・軽減のための研究を行っています。そのため、海で生じている津波や高潮・高波の推算などの物理現象の理論的および数値的研究、室内実験や現地観測による実態把握と理論との比較研究、災害調査を通じた被害メカニズムの解明、海岸・海洋構造物の設計過程で現れる不確定要素によるばらつきやライフサイクルコストを考慮した性能設計法の研究を行っています。こうした研究成果は国内外に発表されており、その一部は、極大波予測や表面流解析プログラムに取り入れられています。

## 水文気象災害研究分野

流域場と大気場との相互作用ならびに人間活動をベースとした水・熱・物質循環系の動態解析とモデル開発、ならびに都市・地域の間・社会と自然との共生を考慮した健全な水・物質循環システムの構築に向けた研究を行っています。

## 2. 現在の教員構成

平成22年10月12日現在の教員構成は以下のとおりです。

災害気候研究分野	教授：向川 均	准教授：今回の公募対象	助教：井口敬雄
暴風雨・気象環境研究分野	教授：石川裕彦	准教授：竹見哲也	助教：堀口光章
耐風構造研究分野	教授：河井宏允	准教授：丸山 敬	助教：(休職中)
沿岸災害研究分野	教授：間瀬 肇	准教授：森 信人	助教：安田誠宏
水文気象災害研究分野	教授：中北英一	准教授：城戸由能	

### ----- 共同利用・共同研究拠点 について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>